

第46回景況アンケート調査 結果報告書

(令和2年5月 11日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 2年 1月～ 3月期》実 績
《令和 2年 4月～ 6月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和2年3月21日（金）～令和2年4月10日（金）

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業210社
(うち回答企業数166社：回答率79.0%)

4. 回答企業数

製造業	63 社
織維工業	20 社
建設業・設備工事業	27 社
卸売業・小売業	27 社
飲食業・サービス業	29 社
計	166 社

5. 景況指數D Iについて

分析方法[景況動向指數(D I)による]

景況指數は、好況・不況の差を指數にしたものであり、基準指數が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

D Iについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

$$D\ I \text{ 方式は、} \frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100 \text{ により算出}$$

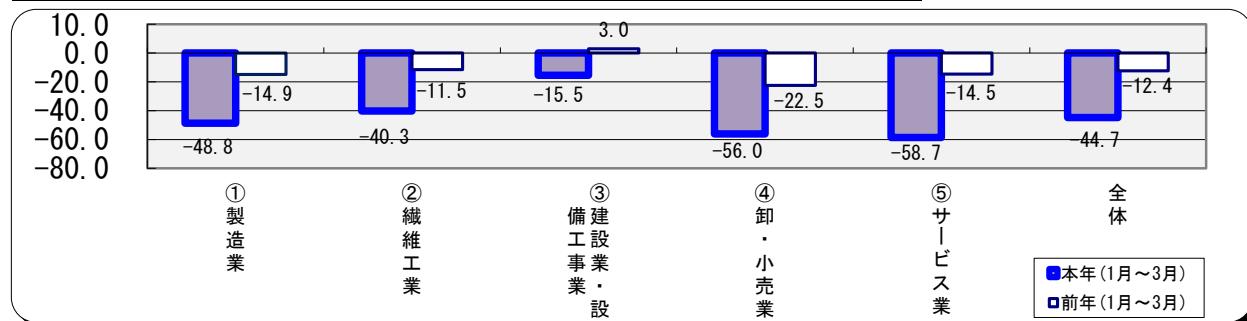
x : 「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y : 「普通」「適正」の回答企業数

z : 「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（1月～3月）の景況について

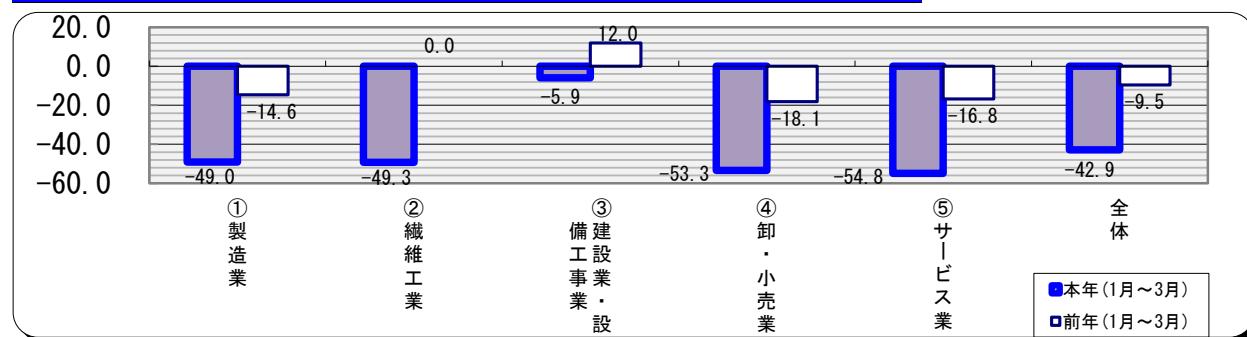
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲44.7ポイント（前年同期▲12.4）と、前年同期に比べて32.3ポイント悪化した。業種別でも、製造業では33.9ポイント、繊維工業では28.8ポイント、建設業・設備工事業では、18.5ポイント、卸・小売業では33.5ポイントと全業種とも大幅に悪化した。

2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて

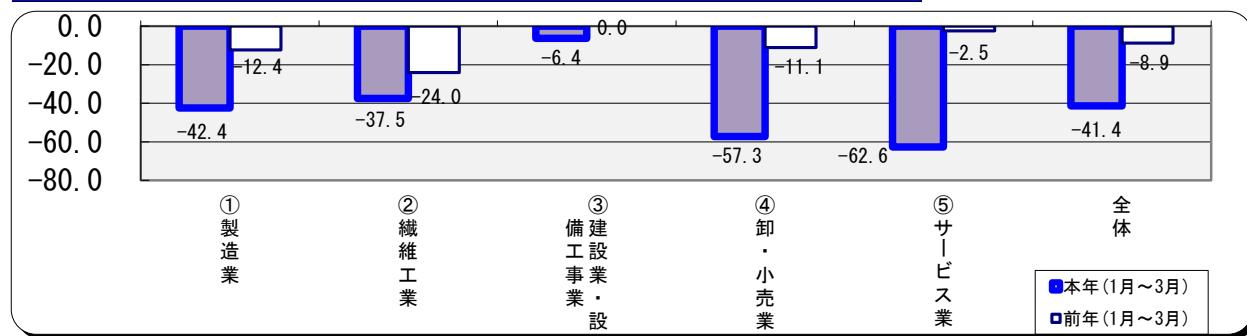


【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲42.9ポイント（前期▲9.5）と、前期（前3ヵ月間）に比べて33.4ポイント悪化した。

業種別では、繊維工業が49.3ポイント、建設業・設備工事業が17.9ポイントマイナスに転じた他、製造業では34.4ポイント、卸・小売業では35.2ポイント、サービス業では38ポイントと大幅にマイナス幅が拡大した。

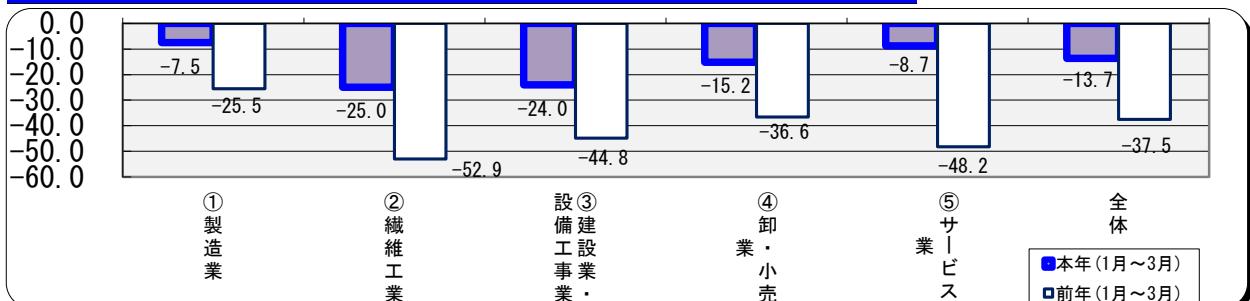
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲41.4ポイント（前年同期▲8.9）と32.5ポイントと大幅に悪化した。業種別では、建設業・設備工事業では、▲6.4ポイント（前年同期0.0）とマイナスに転じた、製造業が▲42.4ポイント（前年同期▲12.4）と30ポイント、卸・小売業でも▲57.3ポイント（前年同期▲11.1）と46.2ポイント、サービス業でも▲62.6ポイント（前年同期▲2.5）の60.1ポイントと大きく悪化した。

4. 仕入価格(原材料)は前年同期に比べて

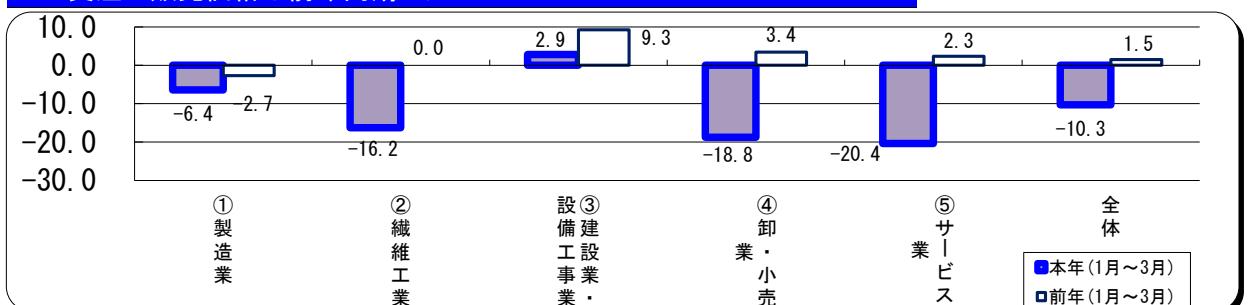


【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料) D I は、全体では▲13.7ポイント(前年同期▲37.5)と前年同期に比べて23.8ポイントと改善した。

業種別でも、マイナスではあるもののマイナス幅が全業種とも改善の傾向が見られた。

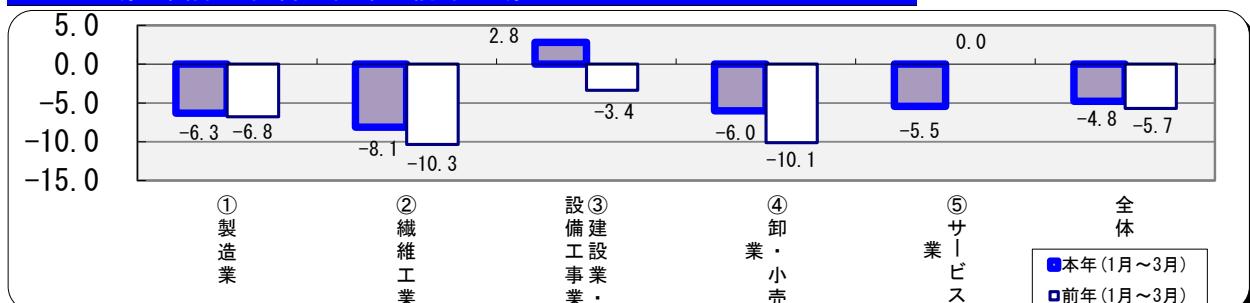
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格 D I】

受注・販売価格 D I は、全体では▲10.3ポイント(前年同期1.5)と11.8ポイント下落し、マイナスに転じた。業種別では、建設業・建設工事業が、プラスではあるものの6.4ポイント下落、その他製造業、繊維工業、卸・小売業とサービス業がマイナスに転じた。

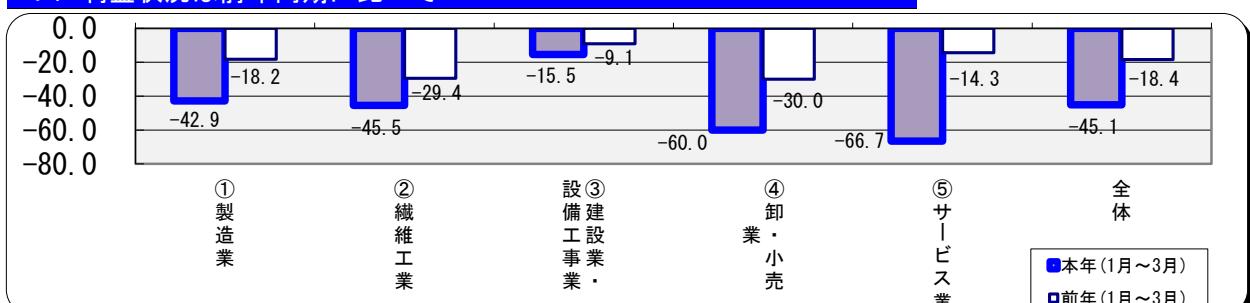
6. 当期の製品(材料)在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品(材料)在庫D I は、全体では▲4.8ポイント(前年同期▲5.7)と、前年同期に比べて0.9ポイントと僅かに改善した。業種別では、建設業・設備工事業では、2.0ポイント(前年同期▲3.4)と5.4ポイント改善し、プラスに転じた。製造業と繊維工業、卸・小売業では、マイナスではあるものの僅かに改善した。一方、サービス業では▲5.5ポイント(前年同期0.0)と5.5ポイントマイナスに転じた。

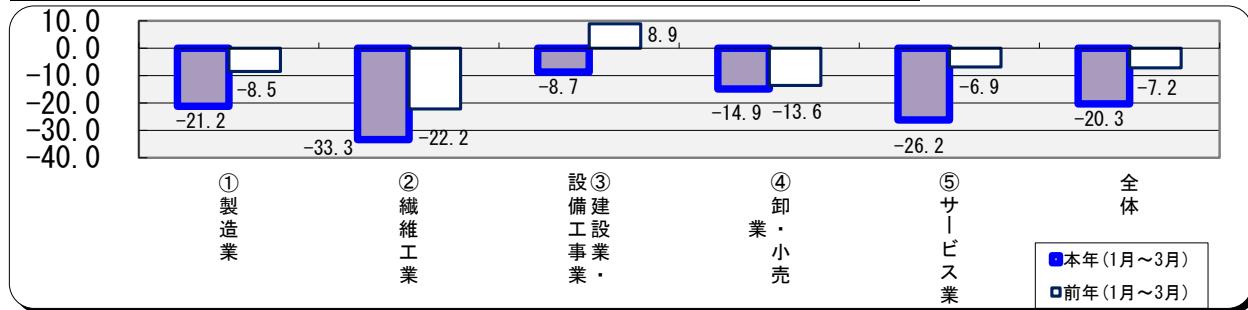
7. 利益状況は前年同期に比べて



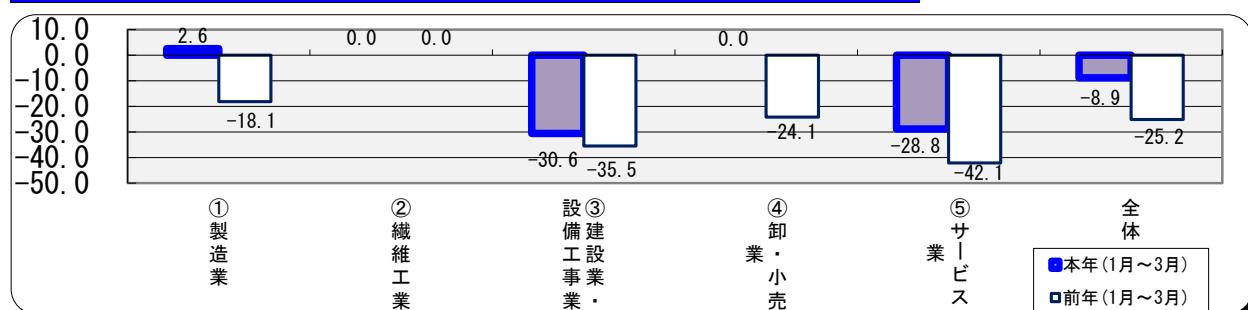
【利益状況D I】

利益状況D I は、全体では▲45.1ポイント(前年同期▲18.4)と、前年同期と比べて26.7ポイントと大幅に悪化した。業種別では、全ての業種で悪化した。

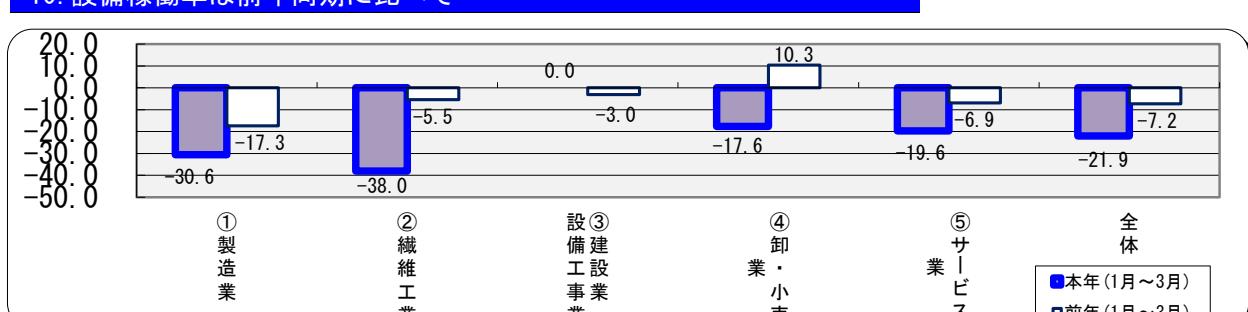
8. 資金繰りは前年同期に比べて



9. 労働力は前年同期に比べて

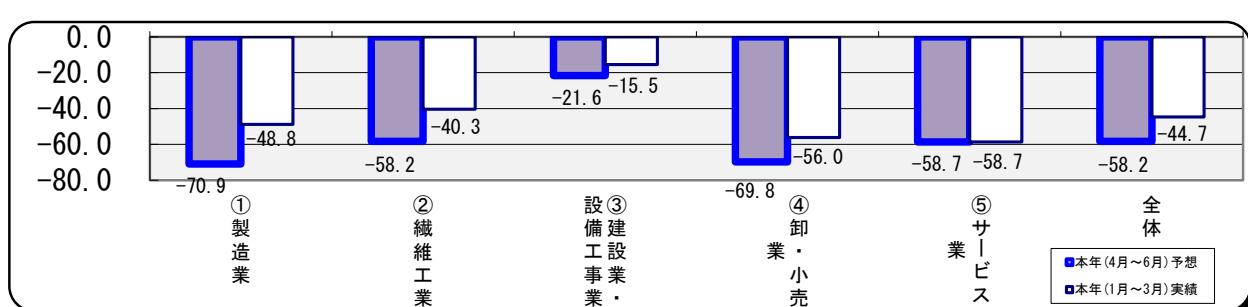


10. 設備稼働率は前年同期に比べて



II. 今後3ヵ月間(令和2年4月～6月)の推移の予想について

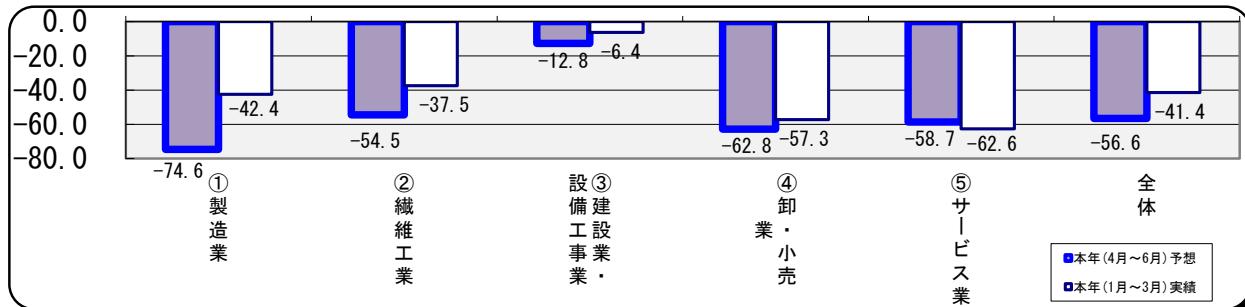
11. 業況は当期（1月～3月期）に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヶ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲58.2ポイント(当期▲44.7)と、悪化する見込み。業種別では、サービス業では▲58.7ポイントと横ばいだが、その他の業種は、製造業をはじめ、マイナス幅が拡大する見込み。

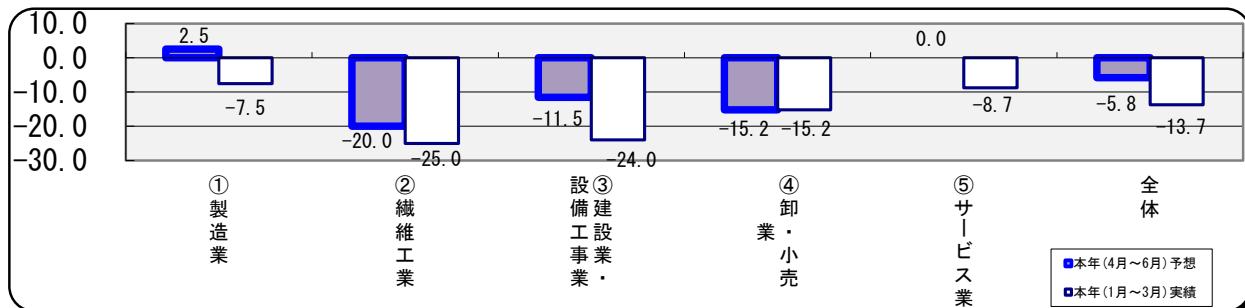
12. 売上高は当期（1月～3月期）に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲56.6ポイント(当期▲41.4)と、15.2ポイントマイナス幅が拡大の見込み。業種別では、サービス業以外の業種でマイナス幅が拡大し、売上が減少すると予想している。一方で、サービス業では、僅かながらマイナス幅が縮小した。

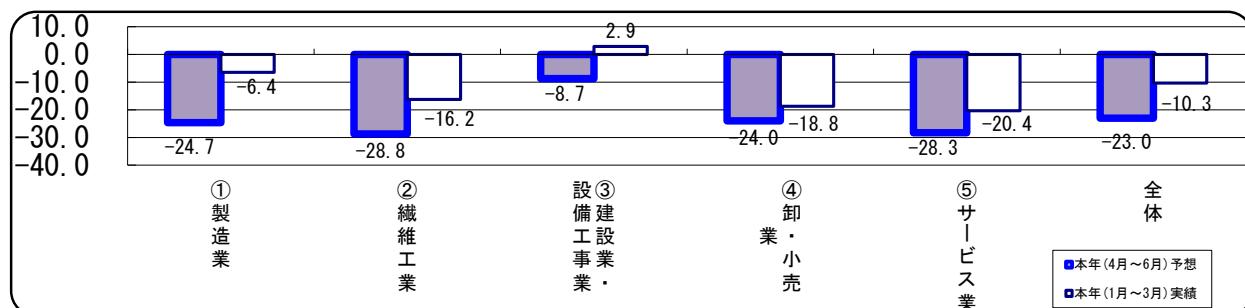
13. 仕入価格（原材料）は当期（1月～3月期）に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格(原材料)D Iは全体で▲5.8ポイント(当期▲13.7)と、マイナス幅がわずかに縮小し、改善する見込み。業種別では、卸・小売業が横ばいで、その他の全業種でマイナス幅が縮小し、改善すると見込んでいる。

14. 受注・販売価格は当期（1月～3月期）に比べて



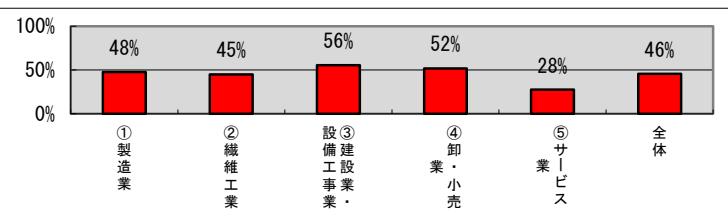
【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは全体で▲23.0ポイント(当期▲10.3)と、12.7ポイント減少幅拡大の見込み。業種別では、全業種ともマイナス幅が拡大すると見込んでいる。特に建設業・設備工事業では▲8.7ポイント(当期2.9)と、11.6ポイントマイナス幅が拡大し、マイナスに転じ、減少すると見込んでいる。

III. 当期直面している経営上の問題点

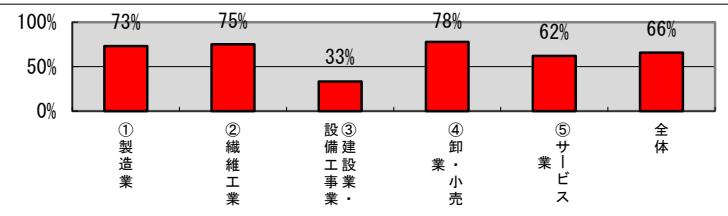
1. 経営の見通し（将来性）

①. 製造業	30
②. 繊維工業	9
③. 建設業・設備工事業	15
④. 卸売業・小売業	14
⑤. サービス業	8
全　　体	76



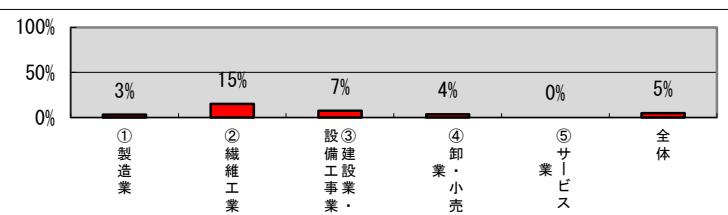
2. 売上（受注）の低下

①. 製造業	46
②. 繊維工業	15
③. 建設業・設備工事業	9
④. 卸売業・小売業	21
⑤. サービス業	18
全　　体	109



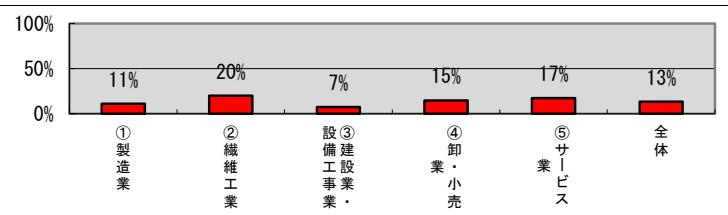
3. 工賃（請負）単価の低下

①. 製造業	2
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	1
⑤. サービス業	0
全　　体	8



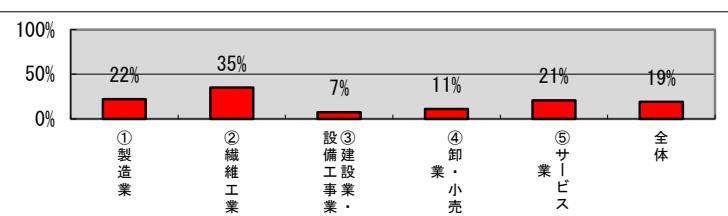
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇

①. 製造業	7
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	5
全　　体	22



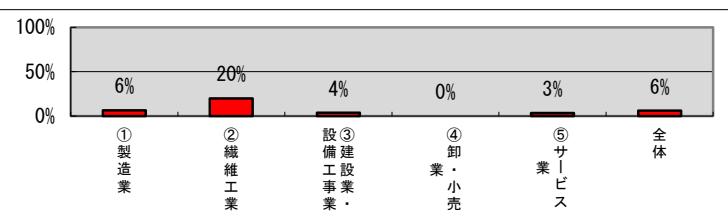
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）

①. 製造業	14
②. 繊維工業	7
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	6
全　　体	32



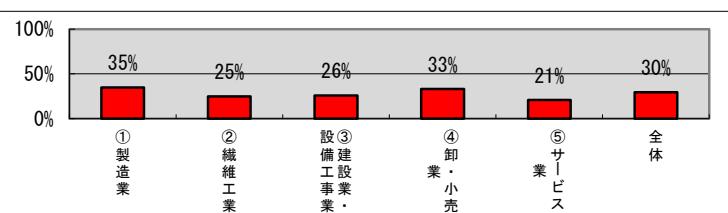
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）

①. 製造業	4
②. 繊維工業	4
③. 建設業・設備工事業	1
④. 卸売業・小売業	0
⑤. サービス業	1
全　　体	10



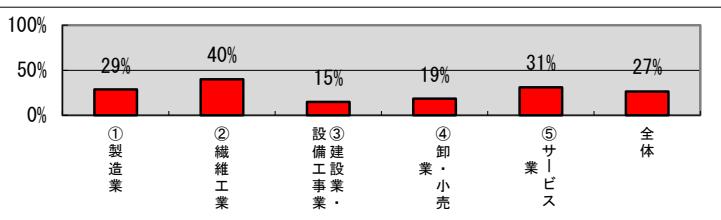
7. 経費（人件費・外注費）の増加

①. 製造業	22
②. 繊維工業	5
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	9
⑤. サービス業	6
全　　体	49



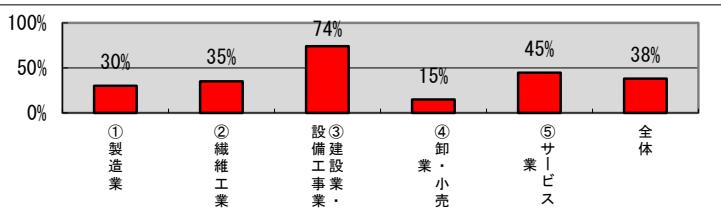
8. 設備・店舗・工場等の老朽化

①. 製造業	18
②. 繊維工業	8
③. 建設業・設備工事業	4
④. 卸売業・小売業	5
⑤. サービス業	9
全　　体	44



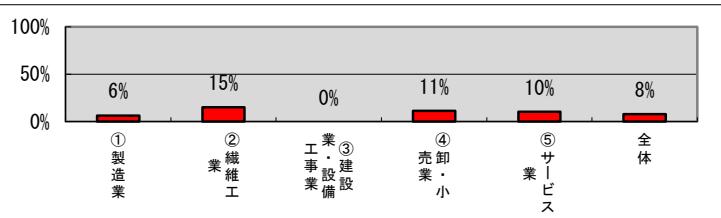
9. 従業員・技術者等の確保難

①. 製造業	19
②. 繊維工業	7
③. 建設業・設備工事業	20
④. 卸売業・小売業	4
⑤. サービス業	13
全　　体	63



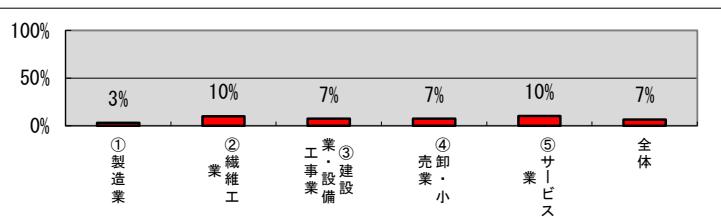
10. 消費者（製品）ニーズの変化

①. 製造業	4
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	3
全　　体	13



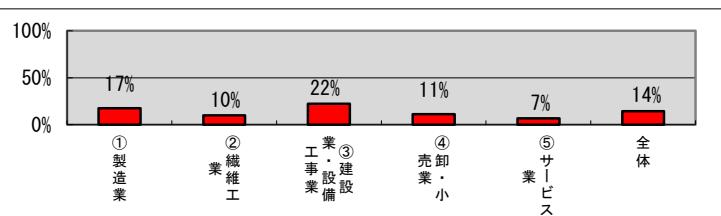
11. 業者間(大企業進出・新規参入)競争の激化

①. 製造業	2
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	2
⑤. サービス業	3
全　　体	11



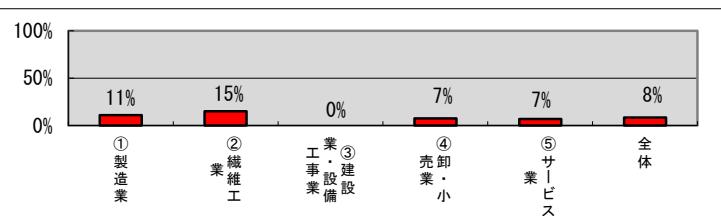
12. 後継者難と事業承継

①. 製造業	11
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	6
④. 卸売業・小売業	3
⑤. サービス業	2
全　　体	24



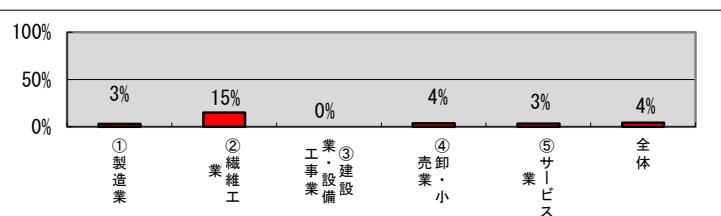
13. 円の動向による影響

①. 製造業	7
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	2
⑤. サービス業	2
全　　体	14



14. 電気料金値上げに伴う対応

①. 製造業	2
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	1
⑤. サービス業	1
全　　体	7



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「売上(受注)の低下」を挙げた企業が66%で最も高く、次いで「経営の見通し(将来性)」(46%)、「技術者(従業員)の確保難」(38%)、「経費(人権費・外注費)の増加」(30%)、「設備・店舗・工場等の老朽化」(27%)と、続いている。

業種別では、製造業、繊維工業、卸・小売業、サービス業が「売上(受注)の低下」を深刻な問題として挙げている。

また建設・設備工事業では、「技術者(従業員)の確保難」と「経営の見通し(将来性)」が挙げられている。

コロナウイルス感染拡大の影響により、感染拡大が長期化すると、売上の減少が深刻化を増し、経営の悪化は避けられない状態で、今後の雇用や資金繰りの更なる悪化が懸念され、経営の見通し(将来性)が一段と厳しさを増すと予想される。

【景況に關することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・コロナによる売上減少
- ・コロナウイルスの景況感はもはや全業種にわたっている。どのような経済状況になるのか。
- ・コロナウイルスによる経済(世界・日本)の先行不透明で不安大。
- ・ウイルス感染について、行政はじめ関係機関には正確な情報発信に努めていただきたいと思う。
- ・新型コロナウイルス拡大に伴う、衛生資材の納入不足、事業継続のリスクの高まり。
- ・新型コロナウイルスの影響により変化する。
- ・当社のコロナウイルスの影響としては、外食関連は前年比売上減20%ダウン。巣ごもり消費、内食関連は前年比売上増25%アップとなっている。結果としてはよいのかもしれないが、コロナウイルスに関係した事柄に1日1日右往左往させられる日々は精神的にきつい。また、業務上、マスクが150枚/日必要であり、マスクなし操業が停止する可能性もあり、不安はつきない。
- ・浸水被害及びコロナウイルスによる被害で受注が低下し将来が不安。
- ・新型コロナの影響が今後どのように出てくるのか見えず不安。
- ・コロナショックの影響の期間。
- ・会社の経営を行なながら感じることは、「運」の存在である。運が味方をしてくれるようであれば、このような厳しい社会環境でも乗り越えて行ける。経営者は「運」を好転させるよう知恵を絞るべきである。毎朝、神棚に拝み清掃を欠かさず行えば、運はついてくるものである。
- ・1. 新型コロナウイルスによる団体客の減少や酒販店の売上減
2. 2019年10月の台風19号被災による復興費用の増大
3. 宅配便の値上がりによる流通コストの増大4. 消費税10%による売上高の減少。
- ・世情を鑑み、先行きの不透明感は長期化を想定せざるを得ない。管内事業者の連携、情報共有等、重要性を増す。
- ・新型コロナウイルスの影響で、生産に必要なマスク等が入荷できないことと、売上の低下がどのくらいになるかわからない。
- ・台風の次はコロナウイルス。厳しい。
- ・新型コロナウイルスによる生産減少、売上低下の恐れが今後心配。
- ・新型コロナウイルスによりメーカー(スバル)4月10日～5月10日(1ヶ月間)LINE STOPにより売上減少4月は約70%ダウン、5月予定約60%ダウンの予想である、今後、資金繰りの悪化となる。

◎繊維工業

- ・たまたま仮需がある場合はある。
- ・コロナウイルスによる影響が出始めている。見本作成後の受注、3月納期分がかなり今ストップしている。(デザイン物ニット部分)
- ・コロナ問題の進行。
- ・ここ数年続く台風災害等の影響で祭りの中止が続き、祭り関係の仕事をしている当社は注文が激減し非常に苦しい状況にある。更にこれから夏に向けて祭り本番という時のコロナウイルス、不況、資金不足に苦しんでいる。
- ・取引先の店舗閉鎖により、減産となり、ここにきて売上が大幅に減少した。この状況がいつまで続くのか?事業継続が厳しくなっている。早急な資金投入を切望。

- ・新型コロナウイルスに対していちじるしく業況が悪化している。今後、緊急事態宣言に伴う店舗の休業でさらに悪化していく様子。

◎建設業・設備工事業

- ・新型コロナウイルスの終息時期。
- ・材料の調達。
- ・仕事の忙しい時間帯・品物・人等以前に増して偏りがあり、難しくなってきた。
- ・イベントの延期・中止で見通しが立たない。

◎卸・小売業

- ・従来からの業界の不振に加え、ここにきて新型コロナウイルスの影響がさらに追い打ちをかけている状況である。
- ・コロナで客が減少している。
- ・コロナウイルスの感染拡大による影響が大きい。
- ・新型コロナウイルスによる、売上減少の為、資金繩りが悪化している。
- ・コロナウイルスにより客足が減少している。もし、店で感染したらと思うと停止になってしまい、大きな会社ではないので、とても不安。資金面もショートする可能性がある。
- ・コロナによる影響が4月度より本格的に出てきた。5月、6月、7月の動向にまず注意したい。
- ・今のところコロナの影響を受けていないので少し助かっている。
- ・令和2年3月で大口案件の消費が終了。4月以降この案件を超えるのは至難。今世間を騒がせているコロナウイルスによるパンデミックの影響が悪く出るのは目に見えて明らか。
- ・コロナウイルスによる多大な影響。
- ・コロナウイルスの影響長期化の恐れ。
- ・コロナウイルスの問題の収束がみえない不安。

◎サービス業

- ・1月下旬から新型コロナウイルスの影響が出始めた。外出自粛を促す状況で外食産業は厳しい局面だ。
- ・部門においては、新型コロナウイルスによる影響で大幅に売上ダウン。
- ・売上の低下として、コロナウイルスが原因によるもの。
- ・コロナ問題が早く終息してもらわないと、経営継続できなくなる。
- ・コロナウイルスの流行状況で全く見通しがつかない。1日も早く終息することを祈るだけ。

足利市のチラシ折込調査レポート（2020.03）

調査地：足利市伊勢町

新型コロナウイルスの影響で出稿大幅減！

2020年3月の足利市の折込広告枚数は332枚で前年比マイナス32.1%（前々年比はマイナス38.6%）であった【※栃木県4地区平均では341.8枚、前年比-30.2%】。新型コロナウイルスに伴う出稿中止が業種を問わず相次いだ。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の54.5%であった。次いでB3(A3)サイズの38.9%となり2種類のサイズが9割以上を占めた。また曜日別では、土曜日が最も多く全体の22.6%に上り、次いで金曜日の16.0%、日曜日の15.7%、水曜日、火曜日、木曜日、月曜日と続いた。

業種別では食品スーパーが80枚（前年比-18.4%）で109カ月連続の首位となった。2位は進学塾・予備校で32枚（前年比-8.6%）、3位は医薬・化粧品で30枚（前年比-34.8%）であった。4位は家電・精密機器で27枚（前年比-35.7%）、5位は衣料洋品で22枚（前年比-38.9%）となり、上位5業種全てでマイナスとなった。

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
足利	枚数(枚)	346	388	358	356	341	332
	前年比(%)	▲20.8	▲12.8	▲16.7	▲13.6	▲4.7	▲32.1
	前々年比(%)	▲14.1	▲19.5	▲28.3	▲21.6	▲18.2	▲38.6
栃木県平均	枚数(枚)	355.8	402.8	401.8	381.5	362.5	341.8

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング（足利市）

(2020年3月1日～31日)

順位	業種（細分類）	枚数			前年比 (%)	前々年比 (%)
		20年	19年	18年		
1	食品スーパー	80	98	101	-18.4	-20.8
2	進学塾・予備校	32	35	42	-8.6	-23.8
3	医薬・化粧品（ドラッグストア・通販等）	30	46	59	-34.8	-49.2
4	家電・精密機器	27	42	39	-35.7	-30.8
5	衣料洋品店	22	36	35	-38.9	-37.1

サイズ別枚数（2020年3月1日～31日）

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	14	129	181	8
0.0%	4.2%	38.9%	54.5%	2.4%

曜日別枚数

(2020年3月1日～31日)

曜日別							
日	月	火	水	木	金	土	
52	19	44	49	40	53	75	
15.7%	5.7%	13.3%	14.8%	12.0%	16.0%	22.6%	

調査：株式会社IS

